

年頭挨拶



学校法人 福岡学園 理事長
水田 祥代



新年明けましておめでとうございます。

皆さんは、新年をどのように迎えられたでしょうか。昨年からは新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中で多くの命が失われ、日本でも東京オリンピック・パラリンピックが1年延期になるなど、世界規模での計り知れない甚大な被害をもたらしました。

実際本学園でも、卒業式の規模縮小開催や入学式の中止のみならず、対面授業すらできない、実習に行けないなど、学校教育にとつて基本的なことができなくなったほか、病院での診療制限も余儀なくされ、本学園にとつても、教職員の皆様にとつても大変苦勞の多い1年だったのではないのでしょうか。

また、学校の運営について文部科学省は、2021年度の予算概算要求額を過去最大の5兆9000億円とし、そのうち新型コロナウイルス対策に約6000億円を要求し、ポストコロナの「新たな日常」の実現に向け、教育・研究環境の整備や高等教育の無償化の継続を実施するほか、大学での科学技術イノベーション創出にも力を入れるとして今までにない予算計上をするなどの対応をしました。

しかし、年が変わっても新型コロナウイルスの感染は治まる気配がありません。今年も感染対策を万全に、最新の注意を払って業務を遂行していかなければならないと思っています。

第二に「教育の質的転換」として

アウトカム基盤型教育による学修成果の可視化を更に推進し、学習意欲の高揚と教育効果の向上に努める。歯科大学は、共用試験及び臨床能力試験の全員合格と歯科医師国家試験の新卒合格者数の増加を目指す。短期大学は、歯科衛生士介護福祉士国家試験の全員合格を目指す。看護大学は、初の看護師・保健師国家試験の全員合格を目指すほか、令和3年度の大学院開設に向け、準備に万全を期す。

第三に「研究の質的転換」として

口腔医学研究センターにおいて、学園3大学における研究基盤を強化し、独自の先駆的研究や3大学相互の連携研究のほか、国内外の研究機関との共同研究等の推進を図るとともに、研究マインドを持った学部学生、大学院生の育成の場として活用する。

第四に「学生の受け入れ・支援」として

アドミッション・ポリシーに基づき厳格な入学者選抜を行い、口腔医療、口腔保健、看護を志向する意欲ある優秀な学生を確保するほか、主体的学習を支援するため、e-learningシステムの充実を図る。また、学生後援会、学生共済会、同窓会との更なる連携を推進する。

第五に「社会との連携・貢献」として

新病院において、新たに開設した健診センターで口腔から全身の健診を行うとともに、最新の設備と機能を最大限に活用し患者増を図り、地域医療を支える大学病院として社会に貢

ただ、このようなコロナ禍ではございましたが、昨年、本学園では、新病院の完成・開院、看護大学大学院の設置認可など明るいニュースもありました。今年は、その新病院を軌道に乗せ、収益アップを図るとともに、旧病院跡地に創立50周年記念講堂の建設着手に取りかかるほか、認可の下りた看護大学大学院が、4月に開学を迎えるというように、昨年芽が出たことが大きく成長する年になると思います。

皆さんご存じのとおり、2021年(令和3年)の干支(えと)は辛丑(かのとうし)年です。丑は十二支の2番目で、子(ね)年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。まさに、本学園にピッタリ当てはまる干支、丑年なのです。

したがって今年は「成長の年」として実り多き年になるよう、皆さんとともに前を向いて日々頑張っていきたいと思っています。

それでは本年の重点項目を述べます。

まず、「口腔医学の推進」として

超高齢社会の中で、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の理念を医療・介護の現場で実践するほか、多職種連携医療における口腔医学の推進に取り組む。

献する。

最後に「組織運営・財務」として

医科歯科総合病院及び介護老人保健施設の収支改善に努め、財政基盤の強化を図るとともに、口腔医療センターの今後の方向性について検討する。また、1年後に迫った福岡学園及び福岡歯科大学の創立50周年に向け、記念講堂の建設を開始するとともに、募金活動をはじめ各種記念事業を推進する。

以上を重点項目といたします。

最後になりますが、これらの重点項目を達成し、本学園は、医療・保健・福祉の総合学園として更なる発展を遂げなければなりません。ウィズコロナのなかで、今までどおりの業務では立ち行かないことが多々あるかと思いますが、発想の転換をして、1年間業務にあたっていただきたいと思っています。そして本学園にとつても、皆さんにとつても、実りの多い年となることを期待して年頭の挨拶といたします。

